

第4回 脳血管医療センター名称部会

日時 平成26年7月7日(月) 19:00～20:00

場所 崎陽軒本店 6階 2号室

次第

1 開会

2 議事

(1) 脳血管医療センターの病院名称について

(2) その他

3 閉会

脳血管医療センター名称部会（第4回） 会議資料

○脳血管医療センターの病院名称

資料

- ・有識者への意見聴取
- ・脳血管医療センター新名称についてのアンケート
- ・脳血管医療センターの新名称について（部会長メモ）
- ・横浜市立脳血管医療センター名称部会に対する要望
- ・脳血管医療センター新名称についてのアンケート
e アンケート集計結果

有識者への意見聴取
(平成 26 年 5 月 8 日(木)から 5 月 26 日(月)まで)

| | | |
|----------------|---|--|
| 脳 卒 中 | <p>小林祥泰 島根大学学長 (神経内科学)</p> | <p>○患者数も脳卒中が一番多い。少なくとも「<u>脳卒中</u>」或いは「<u>脳血管</u>」を入れたほうがよい。</p> <p>○神経難病を入れるのであれば、脳血管神経センターのようにしてはどうか。</p> <p>○神経脊椎センターにすると、脳卒中専門医は来なくなる。</p> <p>○「<u>脳血管(脳卒中)神経脊椎センター</u>」ならばよいのではないか。</p> <p>○院内に領域別センターを作るのであれば、「<u>脳卒中センター</u>」がよい。</p> |
| | <p>山口武典 国立循環器病 研究センター 名誉総長</p> | <p>○診療領域を付けると全て付けないとうまくいかない。</p> <p>○「さくら銀行」や「南横浜病院」のように診療領域は何も入れず病院の中に脳卒中センター、神経センター、脊椎センターを作る。</p> <p>○サブ領域に名前を入れないと患者は来ない。脊椎の患者は「脳血管センター」に行くのは気乗りがしない。なんとなく不安なのではないか。</p> <p>○特に横浜では話し合いを上手く進めることが最も大切になる。</p> <p>○「<u>横浜脳血管・神経・脊髄センター</u>」</p> <p>○「横浜〇〇病院」としてその下に(横浜)脳血管センター、(横浜)神経センター、(横浜)脊髄・脊椎センターと並べる。</p> |
| 神経 疾患 | <p>鈴木則宏 慶應義塾大学 医学部 神経内科教授</p> | <p>○病院の機能をそのまま表すと「<u>横浜神経センター</u>」。しかし、脳卒中を扱うならアクティブな病院。脊髄をどう取り扱うか。</p> <p>○キーワードは、「<u>脳</u>」、「<u>神経</u>」、「<u>脊髄</u>」。それに何か魅力的な言葉を加える。</p> <p>○脊髄は神経だから「<u>神経</u>」と「<u>脊髄</u>」は並列できない。</p> <p>○「脊髄」を入れるなら「<u>脳</u>」と「<u>脊髄</u>」。リハビリ病院の「<u>機能回復</u>」もキーワード。</p> <p>○市民が機能を理解しやすい名称にすべき。「<u>横浜市 脳・脊髄疾患治療センター</u>」</p> |
| | <p>祖父江元 名古屋大学大学院 医学系研究科 神経内科学教授</p> | <p>○病院機能からは、神経という枠でくれるので「<u>神経</u>」は入れた方がよい。</p> <p>○東京でも静岡でもなく、横浜にあるのだから「<u>横浜</u>」は付けた方がよい。</p> <p>○昔は「〇〇病院」だったけど、今は「<u>センター</u>」の方がよい。</p> <p>○「<u>横浜神経センター</u>」、「<u>横浜神経疾患センター</u>」、「<u>横浜神経医療センター</u>」。近い名称では「静岡てんかん・神経医療センター」がある。</p> |
| 脊椎 脊髄 疾患 | <p>齋藤知行 横浜市立大学 医学部長・ 整形外科教授</p> | <p>○市民の人たちの頭の中のイメージと一致するような名称が良い。</p> <p>○「<u>脳</u>」、「<u>脊髄</u>」ならば「<u>神経</u>」の方がよい。</p> <p>○「<u>脊椎</u>」、「<u>神経</u>」、「<u>機能再建</u>」、「<u>機能回復</u>」がキーワード。</p> <p>○例えば、「<u>神経脊椎機能回復センター</u>」。</p> |
| | <p>根尾昌志 大阪医科大学 整形外科学教授</p> | <p>○脊椎の患者や医師を引き付けるために、脊椎脊髄は是非盛り込みたい。</p> <p>○脊椎脊髄を入れた場合、「<u>脳</u>」「<u>神経</u>」「<u>脳血管</u>」のどれを入れるか。</p> <p>○リハビリが充実しているので、「<u>機能再建</u>」か「<u>機能回復</u>」を入れ、ポジティブな名前。「<u>脳脊椎脊髄機能回復センター</u>」。</p> <p>○「<u>神経</u>」を入れると脊髄も神経だから「<u>脊椎</u>」でよい。「<u>脊椎・神経機能回復センター</u>」</p> <p>○「<u>脳血管</u>」では狭いので、「<u>脳神経</u>」、「<u>神経</u>」の方がよいのではないか。</p> <p>○地名だけだと特色が出ない。専門病院なら名称に特色を盛り込むべき。</p> <p>○過去の歴史を払拭するなら「<u>脳血管</u>」を外した方が、一新したというイメージが出る。</p> |
| 病院 経営 | <p>河原和夫 東京医科歯科大学 大学院医歯学系 専攻政策科学 分野教授</p> | <p>○脳卒中に加え、神経難病と脊椎脊髄を中心にしていることを市民に伝える名称。</p> <p>○脳卒中、神経疾患、脊椎脊髄疾患の共通の性格は、QOL(生活の質)、ADL(日常生活動作)が絡んでくる。そのことを活かすことができる病院名称があると良い。</p> <p>○標榜している機能なら「<u>脳</u>」、「<u>血管</u>」、「<u>神経</u>」、「<u>整形外科</u>」、「<u>医療センター</u>」を一つにする言葉。共通のキーワードは「<u>神経</u>」と「<u>運動</u>」。</p> <p>○繋ぎ合わせると、「<u>運動機能向上改善医療センター</u>」、「<u>身体活動生活機能向上医療センター</u>」、これを短い言葉で表せられたら良い名称になる。「<u>統合脳運動疾患医療センター</u>」</p> |

脳血管医療センター新名称についてのアンケート

| アンケート種別 | eアンケート | 院内設置アンケート | 職員アンケート | ホームページ上アンケート |
|---------|---------------------|--------------|------------------|--------------|
| 実施期間 | 5月1日～5月15日 | 5月1日～5月21日 | 5月1日～5月21日 | 5月1日～5月21日 |
| 回答数 | 815件(回収率:37.9%) | 782件 | 399件(回収率:54.1%) | 28件 |
| 対象 | 事前に登録されたメンバー 2,153人 | 脳血管医療センター利用者 | 脳血管医療センター職員 737人 | 広く市民 |

横浜市の専門病院(特定の病気や部位を対象に専門的な診療を行う病院)として、どのような病院名称がいいと思いますか。(複数選択可)

| 項目 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
|------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|----|-------|
| 部位 | 706 | 86.6% | 507 | 64.8% | 225 | 56.4% | 27 | 96.4% |
| 地名 | 382 | 46.9% | 230 | 29.4% | 180 | 45.1% | 4 | 14.3% |
| イメージ | 75 | 9.2% | 75 | 9.6% | 80 | 20.1% | 1 | 3.6% |
| その他 | 17 | 2.1% | 10 | 1.3% | 8 | 2.0% | 1 | 3.6% |

具体的にどの部位を名称に入れたら分かりやすいと思いますか。(複数選択可)

| 項目 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
|-----|-----|-------|-----|-------|-----|-------|----|-------|
| 脳 | 402 | 49.3% | 226 | 28.9% | 137 | 34.3% | 8 | 28.6% |
| 神経 | 251 | 30.8% | 177 | 22.6% | 94 | 23.6% | 5 | 17.9% |
| 脊髄 | 106 | 13.0% | 153 | 19.6% | 96 | 24.1% | 2 | 7.1% |
| 脊椎 | 67 | 8.2% | 124 | 15.9% | 115 | 28.8% | 2 | 7.1% |
| 脳血管 | 437 | 53.6% | 317 | 40.5% | 90 | 22.6% | 23 | 82.1% |
| その他 | 24 | 2.9% | 2 | 0.3% | 7 | 1.8% | 0 | 0.0% |

具体的にどの地名を名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可)

| 項目 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
|-----|-----|-------|-----|-------|-----|-------|----|-------|
| 横浜 | 171 | 21.0% | 192 | 24.6% | 100 | 25.1% | 5 | 17.9% |
| 南横浜 | 82 | 10.1% | 37 | 4.7% | 23 | 5.8% | 0 | 0.0% |
| 磯子 | 164 | 20.1% | 85 | 10.9% | 45 | 11.3% | 1 | 3.6% |
| 滝頭 | 67 | 8.2% | 81 | 10.4% | 58 | 14.5% | 0 | 0.0% |
| 久良岐 | 12 | 1.5% | 8 | 1.0% | 4 | 1.0% | 0 | 0.0% |
| その他 | 11 | 1.3% | 0 | 0.0% | 2 | 0.5% | 0 | 0.0% |

具体的にどのイメージを名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可)

| 項目 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
|------|----|------|----|------|----|------|----|------|
| 市民 | 21 | 2.6% | 69 | 8.8% | 34 | 8.5% | 1 | 3.6% |
| さくら | 12 | 1.5% | 38 | 4.9% | 27 | 6.8% | 1 | 3.6% |
| はまかぜ | 35 | 4.3% | 31 | 4.0% | 22 | 5.5% | 0 | 0.0% |
| うみかぜ | 17 | 2.1% | 11 | 1.4% | 7 | 1.8% | 0 | 0.0% |
| さいせい | 9 | 1.1% | 33 | 4.2% | 11 | 2.8% | 0 | 0.0% |
| その他 | 8 | 1.0% | 2 | 0.3% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

名称の最後を「病院」(例:市民病院)や「医療センター」(例:脳血管医療センター)などにすることを考えています。ア～エの候補のうち、どれがふさわしいと思いますか。(単一選択)

| 項目 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 | 件数 | 割合 |
|--------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|----|-------|
| 病院 | 143 | 17.5% | 66 | 8.4% | 96 | 24.1% | 2 | 7.1% |
| 医療センター | 575 | 70.6% | 501 | 64.1% | 216 | 54.1% | 24 | 85.7% |
| センター | 31 | 3.8% | 51 | 6.5% | 38 | 9.5% | 1 | 3.6% |
| センター病院 | 50 | 6.1% | 80 | 10.2% | 31 | 7.8% | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 16 | 2.0% | 89 | 11.4% | 24 | 6.0% | 1 | 3.6% |
| 計 | 815 | | 787 | ※重複5件 | 405 | ※重複6件 | 28 | |

脳血管医療センターの新名称について

「有識者への意見聴取」、「アンケート」及びそれを基に部会で議論を行ってきました。その中で病院名称は、横浜にある専門病院として、現在の「病院機能をあらわす言葉」と「横浜」と「センター」を組み合わせたものとします。

○現在の病院の機能をあらわす言葉として、次の言葉を名称に入れます。

・「脳卒中」

「脳卒中」は一般に広く使用している言葉で、名称に入れることで、今後も横浜市の「脳卒中」医療の基幹施設として運営していくことを示します。

なお、医療法に基づき定める医療計画においても「脳卒中」について対策が必要な5疾病の一つとされ、脳卒中学会、脳卒中協会も「脳卒中」を使用しています。現在、国会で審議されている法律案「脳卒中対策基本法」にも「脳卒中」が使用されています。広く使用されている疾患名を使用することで、より病院機能がわかりやすい名称とします。

・「神経」

医療機能拡充の中で広く神経疾患に対応してきています。

「神経」を名称に入れることで、神経難病や腫瘍等広く中枢神経（脳、脊髄）の疾患に対応することを示します。

・「脊椎」

医療機能拡充の中で新たに脊椎領域にも取り組んでおり、着実に診療実績をあげています。特に側弯症については、学校保健事業と連携し基幹施設として協力しています。

「脊椎」を名称に入れることで、側弯症等脊椎疾患に対応することを示します。

新名称案

横浜市立 脳卒中・神経脊椎センター

2014.7.2

横浜市立脳血管医療センター名称部会に対する要望

—アンケートの改竄と不正処理について—

横浜市立脳血管医療センター名称検討部会

委員長 藤井 清孝先生

「脳卒中から助かる会」

代表 上野 正

去る6月23日開催の名称部会第三回会議の資料2に、脳血管医療センターの病院名に関するアンケート結果が纏められていますが、ここではアンケートの質問の一部が改竄され、回答率が誤った統計処理によって算出されています。これは常識上考え難いことですが明白な事実であり、名称部会の審議はこの資料によって行われているので、放置することは許されません。

質問の改竄とデータの不正処理について具体的にご説明しますので、ご確認の上、名称部会として以下の処置を取る事を要望します。

要望

- 1 第三回会議の資料2のアンケート質問の変造と、統計処理の誤りを名称部会として正式に確認すること
 - 2 変造資料に基づく審議に問題があることを認識し、正しい資料に基づいて審議すること
 - 3 資料2の質問変造とデータの不正処理の経緯と責任の所在を具体的に明らかにすること
 - 4 上記事態の原因となった、病院名変更への前倒りの姿勢を再検討すること
 - 5 アンケート回答中の横浜の一般市民、患者の意見を重視、尊重すること
- 以上の要望に対して書面によるご回答を頂きたく、下記宛てお送り下さい。

〒231-0824 横浜市中区本牧三之谷 17-28 上野正気付

「脳卒中から助かる会」

説明

- I 質問の改竄とデータの不正処理
- II 「改竄」という理由
- III 改竄の及ぼす影響
- IV 不祥事発生の背景
- V 補足：有識者意見聴取への疑問

I 質問の改竄とデータの不正処理

まずヨコハマeアンケートの例。これは、eアンケート登録者を対象に実施され、回答者815人。結果は横浜市市民局のホームページに公表されています。

このアンケートでは、質問Q3で市立の専門病院としてどのような病院名が良いか、病院名に入れる4項目を挙げて質問。以下の回答を得ました。

ア) 専門の部位 (脳、神経など) 706人、イ) 地名 382人、

ウ) イメージ 75人、エ) その他 17人

次の質問Q4は以下の通りで、市民局のホームページにも、第二回名称部会資料にも載っています：

「Q3で「ア」と答えた方に伺います。具体的にどの部位を入れたらいいと思いますか。(複数選択可)」

ところが第三回名称部会資料で、この質問は次のように書き換えられています。

「具体的にどの部位を入れたら分かり易いと思いますか。(複数回答可)」

ここでは、実施されたアンケートの質問から「ア」の限定が削除されています。

部位を選んだ回答率についても、市民局の比率は「ア」を選んだ706人を分母に計算していますが、名称部会の比率は「ア」と無関係に回答者全員815人が分母で、以下の例のように食い違っています。

| 部位 | 回答数 | 市民局の% | 名称部会の% |
|-----|------|-----------------|-----------------|
| 脊髄 | 106人 | 15.0% (106/706) | 13.0% (106/815) |
| 脊椎 | 67人 | 9.5% (67/706) | 8.2% (67/815) |
| 脳血管 | 437人 | 61.9% (437/706) | 53.6% (437/815) |

質問Q4はもともと「ア」を選んだ706人だけを対象にした質問なので、市民局の比率が正しく、対象外の人を加えた815人を分母にした名称部会の比率は統計上意味を成しません。これ以外に、地名に関するQ5、イメージに関するQ6について同様の処理が行われています。部位の場合には、706と815の違いなので左程ではありませんが、後のⅢで見るように地名等では大変な差になっています。

名称部会資料では、eアンケート以外の、センター院内アンケート、職員アンケート、センターのホームページアンケートのデータも以上と同様に処理されていますが、こうして算出された比率は統計上意味のないものです。

II 「改竄」と云う理由

「改竄」は書面の悪質な書き換えを意味するので安易に使うことは出来ません。私達も最初は数字の違いだけに気付き、単純なミスかとも思いました。

ところが、質問から「Q3で「ア」を選んだ方に伺います」などの限定が削除されていることに気付き、これはおかしいと感じました。何故なら、質問をこう変えてしまえば、アンケートの本当の質問を知らない人は、名称部会の比率が正しいと誤解してしまうからです。

真相判明の決定打は質問Q2でした。これはQ1でセンターについてどの程度知っているかを「ア」、「イ」、「ウ」、「エ」に分けて聞いたあと、Q2の質問：

「Q1で「ア」、「イ」と答えた方に伺います。脳血管医療センターについてどのようなきっかけで知りましたか。(複数回答可)」

という本当の質問が第三回部会の資料にもそのまま残されており、統計処理も「ア」、「イ」を選んだ人数を分母に正しく算出されていたことです。

結局、病院名の決定に関係のないQ2などは元の質問通りに残し、病院名の決定に影響のあるQ4、Q5、Q6に対してだけ選択的に質問を書き換え、それに合わせて比率を算出しているのです。とくに重要な「部位」のQ4は、「いいと思いますか」をわざわざ「分かり易いと思いますか」に書き直してあります。

このような意図的な操作が判明した結果、「改竄」であると判断しました。

これは性格上、公文書の偽造に該当する事案と思われれます。

Ⅲ 質問改竄の影響

質問の改竄は、部位、地名、イメージについてですが、イメージを選んだ人はごく少ないので、部位と地名でそれぞれ第一位に選ばれた「脳血管」と「地名」について、本来の質問による比率と、改竄質問による比率を比べてみます。

なお、ここでは職員アンケート結果には触れません。センターの職員層は横浜の一般市民や患者などと比べてごく少数の集団であり、センター直接の利害関係者であるためです。

「脳血管」を部位として選んだ人の比率

| | e アンケート | 院内アンケート | ホームページアンケート |
|---------------------|-----------------|-----------------|---------------|
| 本来のアンケート 質問による比率 | 61.9% (437/706) | 62.5% (317/507) | 85.2% (23/27) |
| 改竄質問による 名称部会資料比率 | 53.6% (437/815) | 40.5% (317/782) | 82.1% (23/28) |

本来の質問と数値処理によれば、3種のアンケート全てで6割以上の人々が「脳血管」を選んでいきます。改竄された資料からは全く違う印象を受けます。

「横浜」を地名として選んだ人の比率

| | e アンケート | 院内アンケート | ホームページアンケート |
|---------------------|-----------------|-----------------|---------------|
| 本来のアンケート 質問による比率 | 44.8% (171/382) | 83.5% (192/230) | 100%* (5/4) |
| 改竄質問による 名称部会比率 | 21.0% (171/815) | 24.5% (192/782) | 17.9%* (5/28) |

地名を選んだ人が少なかったため、本来の比率と改竄質問による比率は大きく喰い違っています。「横浜」が第一位と言っても、改竄質問による比率では何のことか分からない状態です。

正しい比率を見れば、「横浜」はeアンケートでは半分程度ですが、ほかの二つのアンケートでは8割以上の支持率です。

右端のホームページアンケートの数値に*があるのは、「横浜」を選んだ人が地名を選んだ人よりも多いため不確実性が残るためです。集計の時に「地名」を選ばずに「横浜」を選んだ人は除いておく必要がありました。

一般市民や患者に対する総てのアンケートで、部位を選んだ人が6割以上「脳血管」を選択している事は、センターの病院名を決める上で極めて重要なことです。この事実が、質問の改竄とデータの不正処理で見えなくされていました。

「横浜」を選んだ人の比率も全く不明瞭にされていました。

これは質問の改竄と不正操作が、道義的に許されないだけでなく、センターの病院名決定の審議に大きな影響を及ぼす点で重大であり、審議の有効性に問題があります。

名称部会として、直ちに第三回会議の資料を点検して、資料の誤りを正式に確認すること。正しい資料を作成し、それに基づいて審議し直す事が必要です。

また、このような改竄と不正処理を生じた経緯と、直接の責任の所在を明らかにすること。これは再発防止のためにも不可欠なことです。

そして何よりも、アンケートに示された一般市民、患者の意見を結果に反映させて頂きたい。

IV 不祥事発生の背景

アンケートの最後に、病院名の末尾に何を付けるかの質問があり、これには改竄は無く、「病院」、「センター」などの中から選ばれた第一位は「医療センター」でした。

こうして、一般市民、患者などから選ばれた第一位を繋げると、現行の「横浜市立脳血管医療センター」になります。

しかし、今回のアンケートの質問の仕方には大きな問題がありました。それは、現在の病院名が良いか、変えた方が良いかを全く尋ねなかったことです。

病院名を変える事が既に決まっていた訳ではない以上、現在の病院名のままが良いか、変えた方が良いかを先ず聞いて、変えた方が良いと答えた人だけに今回のアンケートにあるような質問をすべきでした。

こうした当然の手順が守られなかったのは、名称部会がセンターの病院名変更以前のめりの姿勢に傾き、横浜市民のための公正で客観的な審議に必要な思慮に欠けるところがあった。それが行き過ぎて、とうとう質問の改竄やデータの不正処理など文書偽造の事案まで誘発するに至った。

名称部会の委員が今回の事態に直接関与したとは考えにくいのですが、少なくとも名称部会として責任を有することは明らかです。名称部会としての責任において、この事態の経緯と、直接の責任の所在を明らかにして頂きたい。

また、何よりも名称変更以前のめりの姿勢を改めて頂きたい。

V 補足：有識者意見聴取への疑問

資料 1 の有識者意見聴取にも疑問があります。有識者のうち脳卒中専門医 2 名は一応別として、他の 5 名の回答を見ると、脳血管医療センターが横浜市の脳卒中医療の中心施設であり、t-PA 治療など急性期の医療でとくに重要な役割を担っていることなどの重要事項が、回答者に殆ど伝わっていないのではないかと疑われます。

これらの事実は、他分野の医師のばあい、病院名の判断に当って基本的な前提としてとくに重視すべきことですが、回答を見る限りその形跡が全く見られないのは異様なことです。

また回答中には、「中枢神経を扱う病院は民間では経営が成り立たない」、これとは別に、「難病・脊髄損傷はどうしても赤字になる」とした上で、公立病院としてのセンターでの実施を期待する意見もありますが、資料 1-2 の総括では一切省かれています。

基本的な問題は、意見聴取の実施方法にあったと考えられますが、今回の有識者回答については、この点を特に重視して取り扱うことが不可欠です。

質問の変造箇所、データの誤処理、不正操作の効果

質問の変造箇所 例 eアンケート 回答総数 815人

Q3で、ア) 部位、イ) 地名、ウ) イメージ、エ) その他、を選ばせたあと、
(706人) (382人) (75人) (17人)

- ・Q4 (部位の内訳)、Q5 (地名の内訳)、Q7 (イメージの内訳) の質問の中で、「ア) を選んだ方に伺います」などの限定を削除。
- ・とくにQ4では、「いいと思いますか」→「分かり易いと思いますか」

データの誤処理 例 eアンケートで、脳血管を選んだ人の割合%

$$\text{正しい比率} = \frac{\text{脳血管を選んだ人数}}{\text{部位を選んだ人数}} = \frac{437}{706} \dots 61.9\%$$

$$\text{名称部会の比率} = \frac{\text{脳血管を選んだ人数}}{\text{全回答者数}} = \frac{437}{815} \dots 53.6\%$$

不正操作の効果

- ・各項目の支持率が低くなる
- ・とくに支持率の高い項目の支持率低下が目立つ：「脳血管」、「横浜」など
- ・Q4の「部位」では、選択の動機が弱まる：
「いいと思う」→「分かり易いと思う」

例

「脳血管」を部位として選んだ人の比率

| | eアンケート | 院内アンケート | ホームページアンケート |
|---------------------|-----------------|-----------------|---------------|
| 本来のアンケート 質問による比率 | 61.9% (437/706) | 62.5% (317/507) | 85.2% (23/27) |
| 改竄質問による 名称部会資料比率 | 53.6% (437/815) | 40.5% (317/782) | 82.1% (23/28) |

「横浜」を地名として選んだ人の比率

| | eアンケート | 院内アンケート | ホームページアンケート |
|---------------------|-----------------|-----------------|---------------|
| 本来のアンケート 質問による比率 | 44.8% (171/382) | 83.5% (192/230) | 100%* (5/4) |
| 改竄質問による 名称部会比率 | 21.0% (171/815) | 24.5% (192/782) | 17.9%* (8/28) |

脳血管医療センター新名称についてのアンケート eアンケート集計結果

| 実施期間:平成26年5月1日～5月15日 回答数:815件(回収率:37.9%) 対象:事前に登録されたメンバー 2,153人 | | |
|---|-----|-------|
| Q1)あなたは「横浜市立脳血管医療センター」をご存知でしたか?(単一選択) | | |
| 項目 | 件数 | 割合 |
| 名前や概要について知っている | 128 | 15.7% |
| 名前は聞いたことがある | 198 | 24.3% |
| 知らなかった | 488 | 59.9% |
| 無回答 | 1 | 0.1% |
| Q2)Q1で「ア」「イ」と答えた方に伺います。脳血管医療センターについてどのようなきっかけで知りましたか。(単一選択) | | |
| 項目 | 件数 | ※割合 |
| 自分・家族・知人が入院・通院している(していた) | 63 | 19.3% |
| イベントや講演会 | 40 | 12.3% |
| 近所にある | 20 | 6.1% |
| インターネット | 50 | 15.3% |
| その他 | 152 | 46.6% |
| 無回答 | 1 | 0.3% |
| Q3)横浜市立の専門病院(特定の病気や部位を対象に専門的な診療を行う病院)として、どのような病院名称がいいと思いますか。(複数選択可) | | |
| 項目 | 件数 | 割合 |
| 部位 | 706 | 86.6% |
| 地名 | 382 | 46.9% |
| イメージ | 75 | 9.2% |
| その他 | 17 | 2.1% |
| Q4)具体的にどの部位を名称に入れたら分かりやすいと思いますか。(複数選択可) | | |
| 項目 | 件数 | 割合 |
| 脳 | 402 | 49.3% |
| 神経 | 251 | 30.8% |
| 脊髄 | 106 | 13.0% |
| 脊椎 | 67 | 8.2% |
| 脳血管 | 437 | 53.6% |
| その他 | 24 | 2.9% |

※Q2については、Q1で「ア」「イ」を選択した326件を分母として割合を算出しています。

| Q5)具体的にどの地名を名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可) | | |
|---|-----|-------|
| 項目 | 件数 | 割合 |
| 横浜 | 171 | 21.0% |
| 南横浜 | 82 | 10.1% |
| 磯子 | 164 | 20.1% |
| 滝頭 | 67 | 8.2% |
| 久良岐 | 12 | 1.5% |
| その他 | 11 | 1.3% |
| Q6)具体的にどのイメージを名称に入れたらいいと思いますか。(複数選択可) | | |
| 項目 | 件数 | 割合 |
| 市民 | 21 | 2.6% |
| さくら | 12 | 1.5% |
| はまかぜ | 35 | 4.3% |
| うみかぜ | 17 | 2.1% |
| さいせい | 9 | 1.1% |
| その他 | 8 | 1.0% |
| Q8)名称の最後を「病院」(例:市民病院)や「医療センター」(例:脳血管医療センター)などにするを考えています。ア～エの候補のうち、どれがふさわしいと思いますか。(単一選択) | | |
| 項目 | 件数 | 割合 |
| 病院 | 143 | 17.5% |
| 医療センター | 575 | 70.6% |
| センター | 31 | 3.8% |
| センター病院 | 50 | 6.1% |
| 無回答 | 16 | 2.0% |
| 計 | 815 | |

※自由記載は別紙参照